

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	瀬棚高齢者グループホームあさなぎ	評価実施年月日	平成 21 年 10 月 5 日
評価実施構成員氏名	中谷尚美、金澤早苗、大口津枝子、水野力也、池田仁美、碓谷美波 稲垣香澄、天羽恵理花		
記録者氏名	金澤早苗	記録年月日	平成 21 年 10 月 20 日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた地域との関わりを大切にしながら、その人らしく、安心、安全でゆったりした暮らしが送れるよう支援していくことを理念として掲げている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は職員全員で考え、まとめ上げたものになっており、共有できており、日々のケアも理念に基づいて取り組んでいる。	○	新しい理念を意識、理解し、日々のケアに繋げていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に対しては、できるだけ地域の行事等にも積極的に参加していきたい旨説明している。また、地域の方に対しても、訪問等呼びかけており、地域からも行事参加へのアプローチがあり、できるだけ参加するようにしている。(町内会のミニ敬老会への出席。ボランティアセンター主催の“ぷらっと”への参加。瀬棚区敬老会への参加。生活支援ハウスでの行事への参加等。)	○	今後も地域の方々に理解を深めてもらえるように積極的に行事等に参加していきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方々には、日頃より声をかけていただいております。日常的に買い物や散歩などに出かけ、近所の方たちとも挨拶を交わしたりお話ししたりしている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の一員として、町内会に加入し、町内会行事に参加するよう心がけている。また、地域のボランティアセンターが主催する行事にも積極的に参加している。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症サポーター養成講座の出前講座や認知症の相談を受け入れていることを町の広報誌で周知している。	○	認知症サポーター養成講座の出前講座や認知症の相談を受け入れていることの周知の徹底を図り、積極的に活用していただけるようにしてPRしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>各自で評価後、職員全体で討議し、取組みの改善点を明確にできた。</p>	○	サービス評価の意義や目的の理解を深め、評価の結果を改善計画に活かし、取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議では入居者の状況や主な活動状況、外部評価の結果などを報告している。また事業所への要望等についても話し合う機会を持っている。</p>	○	運営推進会議が定期的開催され、会議での意見等が反映されるようにしていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>事業所の設置主体は町であるので、町の意向を確認しながらサービスの向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>地域権利擁護事業や成年後見制度については概要を学ぶ機会を設けている。現在は、1名の入居者が地域権利擁護事業を活用している。</p>	○	今後も、制度の理解を深め、必要な方に活用していただけるように取り組んでいきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待に関する理解を深めるため、事例を用いてミーティングなどで話し合っている。虐待が出ない、虐待を見過ごさない職場環境づくりを心がけている。</p>	○	計画的な研修を重ね、尊厳ある暮らしの実現に取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>利用者や家族等に不安のないように十分な説明を行い、理解が得られるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で、利用者が直接意見を述べる機会が設けられている。日常生活の関わりの中で、職員が個別に意見や不満を聴き取ることができるように取り組んでいる。	○	今後も利用者の意見や不満を聞き取ることができるよう取り組んでいきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	普段から家族の訪問時には、できるだけ利用者の暮らしぶりや健康状態などをお話しており、その他1ヶ月に1回の「あさなぎだより」において、近況報告を書面で行っている。金銭管理については、家族が訪問された際に「現金出納帳」を確認していただき、サインをいただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で、外部に意見等を表す機会を設けている。また家族交流会で意見を伺う機会を設けている。ホームに対するご要望やご意見を求めるご意見箱の設置しているほかに、家族が訪問に来所された際、できるだけお話が聞けるように「何か気づいたことはありませんか」などと声がけするようにしている。	○	家族、職員が一体となり利用者を支えていく体制を作って行きたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回、夜勤者、遅番を除く職員全員でミーティングを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけや聞き出しをするように努めている。運営者との個別面談が設けられ、運営に反映されるようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じ、他の職員が必要な時間帯に配置できるよう話し合い、勤務の調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員が対応することが重要と考えているので、できるだけ職員の異動や離職を必要最小限に抑えるよう努力しているが、止むを得ない場合は、その時期や引継ぎ面で利用者へのダメージを防げるよう配慮している。	○	今後も、スタッフの離職、異動を必要最小限に抑えるよう努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は、閲覧するようになっている。</p> <p>法人内研修は職員全員参加で行っている。</p>	<p>○</p> <p>法人内研修を定期的実施していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>勉強会等で交流を行っている。町の実地指導があった際に町内や近隣町の同業者との交流の機会が持てるよう場や活動の提供を要望している。</p>	<p>○</p> <p>交流の機会は少ないため、勉強会や意見交換会など交流の機会を計画的に設け、質の向上に努めたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>親睦や交流の場を設け、ストレス軽減の対策を講じている。運営者との面談があり、悩みや提案を話す機会が設けられている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務状況や各職員の努力や資格習得を把握しており、各自が向上心をもって働けるよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>町の担当者が本人から話を聴く際には、管理者や計画作成担当者が同行し、本人の不安等を受け止めるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>町の担当者が家族から話を聴く際には、管理者や計画作成担当者が同行し、家族の不安等を受け止め、事業所としての対応を事前に話し合うように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思い、状況等を確認し、必要な支援を見極めるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族に事業所を見学してもらうことから始め、安心感を持っていただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は人生の大先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えていただく場面を多く持つよう、セティングや声がけに配慮している。調理や畑のこと等長年行っていた方がほとんどなので教えてもらうことが多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には、できるだけ訪問していただき、ホームでの生活を知ってもらうように情報を提供するとともに、家族の思いを大切に受け止め、共に支えあう関係を日々の築く努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族や本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごされることを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、互いがよりよい関係が築いていけるように支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域に暮らす馴染みの知人や友人等の家に遊びに行ったり、継続的な交流ができるよう働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活の言動から利用者間の関係性を把握し、ミーティングや申し送りで職員が共通理解につとめている。入居者間同士の相性やその時々感情にもよるが誤解や対立時には見守りや介入し、関係の修復の支援を行っている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族への状況確認等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	十分とはいえないが、日々の関わりの中から、直接の言葉だけではなく、行動や表情からも本人の思いや希望、意向の把握に努めている。また、家族からも情報を得ながら意向の把握に努めている。	○	ゆっくり話を聴く時間を設けたり、個別の行動を支援する機会持つことで、本人の意向を汲み取って行きたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面接や入居後の家族の面会時や日々の会話から情報の把握に努めている。	○	情報を積み上げ、その人らしさの個別化を明確にしていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活を意識的に観察し、個人記録に記すことで、総合的に把握するように努めている。	○	日々変化する心身状況、有する力を的確に把握し、対応できるように見極めの力を養って行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や本人の意向を伺いながら、日々の観察を基にミーティングで意見交換しながら作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直しを行っている。日々の変化については、「申し送り」を随時計画として機能させている。状態変化時は見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活の様子や心身の変化の気づきを個別記録に記録し、申し送りノートでも情報を共有すると共に介護計画の見直し時の「評価」や「新たな課題」に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察や消防、ボランティアセンター等地域資源を活用できるよう、日頃より連携をとっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	特に行っていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	特に行っていない。	○	必要性が生じた場合は、連携をとって本人の支援に結び付けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は、本人や家族の希望に応じて対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	状況に応じて専門医の診断、指導を受けている。	○	必要性が生じた場合は、専門医に相談し、本人の支援に結び付けていきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入院時の心身状況や介護上の注意点等の情報交換や、入居後の健康管理について気軽に相談できる関係を築いている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	主治医の状態説明時はできるだけ同席させていただくと共に、お見舞いや家族との情報交換を行い、状態把握に努めている。また、退院後の介護方法の助言を受け、早期に退院ができるように病院関係者と連携を深めるように努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、家族の意向を大切にしながらも、当ホームの対応の限界を理解していただいた上で、その都度、本人、家族、医療関係者との話し合いには、職員も同席し、方針を共有している。職員に対しては、ミーティングにおいて、状況等を説明し、情報を共有している。	○	本人や家族、医療関係者等と連携を図りながら、チームで支援できるように努めたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の変化に応じて、その都度検討をおこなう。	○	重度化や終末期の利用者に対して、安心や安全を確保しながら暮らしていただけるために、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全体で話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながら、チームで支援できるように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	基本情報、生活歴、ケアプラン、生活上の注意点等の情報を提供し、住み替えによるダメージを極力少なく済むように支援しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	心がけてはいるが、誇りを損ねない言葉かけは十分とはいえない面がある。	○	人生の先輩として、尊厳をもって接する態度を身につけるよう日々の点検やミーティングで取組みを強化していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者に合わせた説明や決定しやすいような問いかけの工夫をしている。本人が思いや希望を気兼ねなく表せるように、日々の信頼関係の構築に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大事にしながらも、散歩や買い物等外出の提案をし、自己決定していただくように努めている。一人ひとりの状態や思いに配慮して対応するようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の行きつけの美容院や理容店がある方については、行けるように支援している。行きつけの理容店がない場合は、近所の理容店に行ったり、理容師に来ていただいで、ホーム内で整髪等を行っている。毛染め等も希望があれば行っている。外出時にはお洒落着に着替えたり、自分で選べない方にはお手伝いしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みを聞き取るだけでなく、食事の動作や時間、量などを観察し、好みを把握し献立に取り入れるようにしている。その人のできることを見極めて、食事作りや片付けに参加してもらい、生活の張りになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は本人の希望を聞いて提供している。おやつはできるだけ希望を聞いているが、糖尿病等本人の状況に応じて量の調節をおこなっている。また、タバコは喫煙場所を一定に決めさせていただき、タバコ、ライター、吸殻の管理を職員がおこなっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の時間帯や習慣を把握し、排泄パターンに合わせたトイレ誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員が一方向的に決めず、利用者のその日の希望を確認し、入浴していただいている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調やその日の活動量によって、休息を促している。夜間の不眠時には、無理に眠るように強要せず、職員が話し相手になったり、ホットミルクを飲んでいただいで、安心した眠りができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人に合わせて、家事仕事や畑、買い物、ドライブ、散歩、ゲーム、読書、休息等得意なことをやって頂き、役割や楽しみにつなげたり、気晴らしをおこなっている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお金を預り、事業所が管理している方でも、必要に応じお金を渡すようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の気分、希望にあわせて、買い物や散歩、ドライブ、外気浴等楽しんでいただいている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見、紅葉狩り、レストランでの外食等に出かけている。温泉入浴については、予め計画を立て、職員の勤務を調整し、実施している。	○	家族の協力も得られるようにしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時にはいつでも家族などに電話できるように支援している。また、会話が他の利用者に聞こえないよう配慮している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪者に対しては、笑顔で出迎え、見送りし、気軽に来やすい雰囲気づくりを心がけている。特に、時間の制限はなく、いつでも訪問していただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	権利擁護や身体拘束に関する共通理解を持てるよう、ミーティングにおいて勉強している。	○	職員全員で研修を継続していきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒に外出するなど、施錠の弊害を理解し、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるよう取り組んでいる。		職員全員で研修を継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	職員は利用者と同じ空間の中で活動しながら、利用者の状況を把握するように努め ている。夜間は、数時間毎に利用者の様子を確認するとともに、状況に応じた対応 ができるようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防 ぐ取り組みをしている。	調理器具や作業内容は一人ひとりの状態に合わせておこなわれており、必要に応 じて見守りや介助を行っている。また、注意が必要な物は職員が把握し、管理方法 を職員間で共有している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に 応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を把握し、移動補助具の検討や介助方法の工夫などを検討して いる。また、ヒヤリハットの活用やミーティングで検討し、事故防止に取り組んでい る。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	普通救命講習を受けているが、その後のミーティング等で再確認していないので、 十分とはいえない。	○	全ての職員が、年1回の応急手当の勉強会を実施し、体験・体得・習得するようになっていきたい。また、 消防署等の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修も行っていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている。	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を 定期的に行っている。	○	今後も運営推進会議に実施報告していき、町内会をはじめとする地域の協力を得られるよう働きかけ ていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	入居前に、できるだけ抑圧感のない意欲を持った活動的な生活を目標していること を説明すると共に、限られた職員での対応の中で想定されるリスクを説明し家族か ら同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段の状況を職員は把握しており、本人の訴えはもとより、表情や顔色、行動の変化等を観察し、個人記録に記すと共に異常発見時は、管理者や他職員に報告、連絡、相談を行い速やかに対応をしている。必要時には病院受診し、家族にその報告を行っている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個別記録に薬の処方箋が綴られ、薬の目的や副作用等が記載されており職員が情報を把握できるようになっている。処方の変更時には申し送りで再度情報の共有の確認をおこなうとともに、症状の変化の観察や食事の有無によっての変更などに努めている。また、その人の状態によって、薬の手渡しや、飲み込み確認などの支援を行っている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘がもたらす症状(食欲不振や血圧上昇、腹痛、不快感、不穏など)を理解し、ヨーグルト、野菜や果物、水分を摂取や身体を動かす機会を適度に設け、自然排便を促すように取り組んでいる。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>起床時と就寝前には口腔ケアを実施しているが、昼食後は一部の利用者のみ実施している。</p>	<p>○ 口腔内の汚染は、においや不快感だけではなく、誤嚥性肺炎や糖尿病などの全身症状に影響されるといわれているので、今後は、全ての利用者が毎食後ケアの実施に取り組んでいきたい。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分量の摂取状況を記録し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるようになっている。必要時にミーティングや申し送りで対策を確認している。外出時や調理前のうがいと手洗いの徹底、塩素による掃除の実施をおこなっている。また、利用者及び家族に同意をいただき、利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。居室に濡れタオルをかけるなど湿度対策をしている。面会者へのマスク着用と手指の消毒をお願いしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具、台所の水周りの衛生管理のため、職員の役割分担を決めて行っている。新鮮で安全な食材を使用するため、毎日買い物に出かけ、できるだけ買いためはしないようにしている。注意が必要な物については職員が把握し、管理方法を職員間で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	出入口付近にベンチやプランターなどを置いて、利用者や家族、また、近所の人立ち寄りたときに、ひと息つけたり、お茶を飲めるようなスペースを確保している。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	まゆ玉飾りやクリスマスツリー、七夕飾りなどで季節を感じていただいている。また、ご飯の炊ける匂いや茶碗の洗う音など、五感や季節感を取り入れる工夫をしている。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	玄関ホールにイスやソファ、小さなテーブルを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で寛げるスペースを作っている。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室には以前から本人が使っていたものを持ち込んだり、本人の意向や家族の思いも聞きながら、居心地良く過ごせる部屋となるよう配慮している。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	朝、夕2回の温度と湿度の確認をし、こまめに調節し、快適な状態を保つように配慮している。トイレは常時換気されているが、排泄後や失禁の処理に一時、臭いがこもってしまうこともあるが、すぐに換気し、快適な状態を維持するように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室に手すりが設置されている。また、玄関には靴の履き替え時に座るベンチが置いてあり、できるだけ自立した生活ができるように配慮している。身体状態にあわせ、手すりの位置が適しているかなど確認している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	夜間のトイレの場所の混乱を防ぐために、トイレのに夜間灯を点けている。また、居室前に、大きく名前を書くなど目立つように工夫をしている。一人ひとりの「分かる力」を見極め、「分かる力」を活かせる支援を行うとともに、状態が変わり、新たな混乱や失敗が生じた場合は、都度職員同士で話し合い、本人の不安要素を取り除けるよう試みている。	
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	家庭菜園程度の畑を作り、利用者が日常的に楽しみながら活動できる場と、玄関先や畑の所にベンチを置いて、利用者が休憩したり、外気に触れる場を設けている。	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>○①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

①穏やかな暮らしを基本に据えながら、その中で、できるだけ外出する機会を設け、四季を肌で感じていただくようにしております。②室内においても、廃用症候群にならないため、本人ができることを見極め、できることはやっていただき、脳と身体を使うようにしております。③地域の行事等には、積極的に参加するようにし、地域との交流を図っております。